

# 科学論文数の国際間競争 —米中の競争激化と我が国の地位低下に鑑みて—



元大阪大学大学院経済学研究科講師  
西口 博之

## 目次

- I. はじめに
- II. 科学技術立国と国際間競争
  - 1. 最近の米中の研究開発競争
  - 2. 科学論文数の攻防と科学技術政策の転換
- III. 我が国科学論文数の推移
  - 1. 最近の我が国の研究力の実態
  - 2. 我が国の研究力低下への対策
- IV. 自然科学系学術論文誌とインパクトファクター
  - 1. 三大科学誌
  - 2. インパクトファクター
- V. 我が国の研究力の復活
- VI. おわりに

---

## I. はじめに

2020年2月20日付け日本経済新聞記事「革新攻防<sup>④</sup>」並びに同年9月28日付け同新聞記事「科技立国・落日の四半世紀<sup>①</sup>」によれば、科学技術が世界の経済や安全保障を左右する昨今、日本の研究力の低下が止まらない。

我が国は1980年代から1990年代初めにかけて、世界の研究者が注目する「上位10%論文数（被引用数Top10%補正論文数）」が米英に次ぐ世界第3位がその定位置であったが、2000年代半ばからその順位を大きく下げ、最近是中国の後塵を拝して9位に甘んじている。